

# 第2回 さんサポ+PJ レポート

2020.12.10. 14:00 ~ 16:30

参加団体: 志摩い地区まち協  
 カスタマビリティセンター・ネバーセンターの会  
 アミタ・みりさん会・佐久・観光協会  
 がもい虹電合衆・仮場建設課 / 11名

内容は以下の通りでした。  
 ①~③を自由に発言したものを書き残しました



第2回 さんサポ+PJ 14:00~16:30

14:00 1 あいさつとふりかえり

14:20 2 今日の内容 (各団体の「さ」のキーワードを新)

① みんなが考えたことの共有  
 ② 共通点を探してキーワードを考える  
 ③ 今後の体制やプロセスを考える

めぐる (いのち・時代・想い) 人と人のつながり **世代を重ねる!**

→ 防災庁舎をめぐるといふ人の心配り (避難場所の確保)

夜肥と活す 魚釣り good ← いまのつながり

活動自体が主目的

可成り地元材を活かして販売 (祈りのたから)

→ 活動資金に充ててゆく

イメージとこの違和感 (明治神宮の森のよう)

自然の恵みを生かす ← 今後の取り組み

長く仕組み

公〇を軸に につなぐと 学び × つながり

イメージのすり合わせ (参考資料)

14:00 公〇を案内する方法を知りたい  
 地域の人が住みたい感じがないので  
 行く人を増やして ↑

( ) → さ(さ) → ま(ま) → 開(あ)か

年間の中で公〇を思うような

1回目 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ

2回目 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ

3回目 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ

4回目 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ

5回目 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ

6回目 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ

7回目 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ

8回目 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ

9回目 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ

10回目 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ

11回目 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ

12回目 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ

13回目 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ

14回目 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ

15回目 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ

16回目 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ

17回目 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ

18回目 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ

19回目 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ

20回目 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ  
 さんサポ+PJ

上記を 水いあちゃんに次回お話し  
 するためのことに。

- 大きなキーワードとしては
- めぐる (いのち・自然・想い・歴史)
  - 世代を重ねてゆく (次世代へ)
  - アクションとして Map がこれ!
  - イメージのすり合わせ さらに必要
  - 愛称から目的を絞っていく
  - 体制は2.3月に整える! etc

→ 次回は 1月27日(水) 14:00~です!!



# さんサンポートPROJECT 概要資料（案）

## ①さんサンポートPJに至るまでの背景

### (1)志津川まちづくり協議会・部会の活動

震災前にはなかったおよそ6haの公園。周囲は災害危険区域となり近隣公園としての管理は難しいため、町民の関心を高め持続的な運営体制をつくっていくことが課題であるとして「公園の関係者マップ」「1年間の公園の使い方マップ」などを作成しました。

### (2)志津川まちづくり協議会・役員会での検討

まち協の部会やその他町民有志の会で議論されてきた「町民主体」や「協働」の在り方を実現させるために  
〈STEP1：公園を知る活動〉→〈STEP2：公園を考える活動〉→〈STEP3：公園を維持する活動〉の必要性和その具体例を提言書として町に提出しました。

### (3)「公園をあるこう会」等での周知・検討活動

町民有志の会である「復興みなさん会」の協力も得ながら、まち協主催で提言していた「公園をあるこう会」を開催しました。町の職員から説明を受けながら公園を歩き、気付きや今後の課題について共有し、公園を守っていくためにどうしたら良いか意見交換の場を3回実施しました。また、同じく提言していた植樹会も地元の小学生を中心に呼びかけて実施しました。

### (4)「さんサンポートPJ」の発足

震災祈念公園も開園し、いよいよ公園の維持や活用を本格的に考えていく必要があるということで、これまでの経緯の中でも関わってきた有志及び今後公園と関係して欲しい事業者・団体等組織にも呼びかけをし、プロジェクトとしての発足を検討した結果「さんサンポートPJ」と名付けました。

## ②志津川地区まちづくり協議会からの提言

**提言その①南三陸町震災復興祈念公園がどんな公園なのかを知る：**志津川地区にあるものの町の公園だしみんなの公園です。日常的に訪れたり子どもと遊びに来ても良い場所でもあります。しかし、祈りの場の印象が強く、町民でもなかなか気軽に訪れてはいけない印象を持っている人もいます。まずは、公園に足を踏み入れる機会を創出することが大事だと提言しました。

**提言その②どうやったらみんなで公園を使ったり守ったりできるか考える：**公園をどのように使いたいか、どんな企画ならもっと人が集いやすいか、将来的にどんな場所になっていくと良いかなどを考えて意見交換をしていく必要性和そのためのイベントについて提言しました。

**提言その③みんなで無理なく協力し合える体制を構築して維持する：**まずは、イベントや呼びかけに応じてくれた町民たちで集まって考え始めるところからスタートしつつ、例えば町内の子どもたちや事業者、団体などがさまざまな立場からそれぞれの方法でできる関わり方を検討すること、そして無理なく長く続くような体制を構築していく必要性を提言しました。

## ③「さんサンポートPJ」発足

### POINT①「会」ではなく「プロジェクト」に

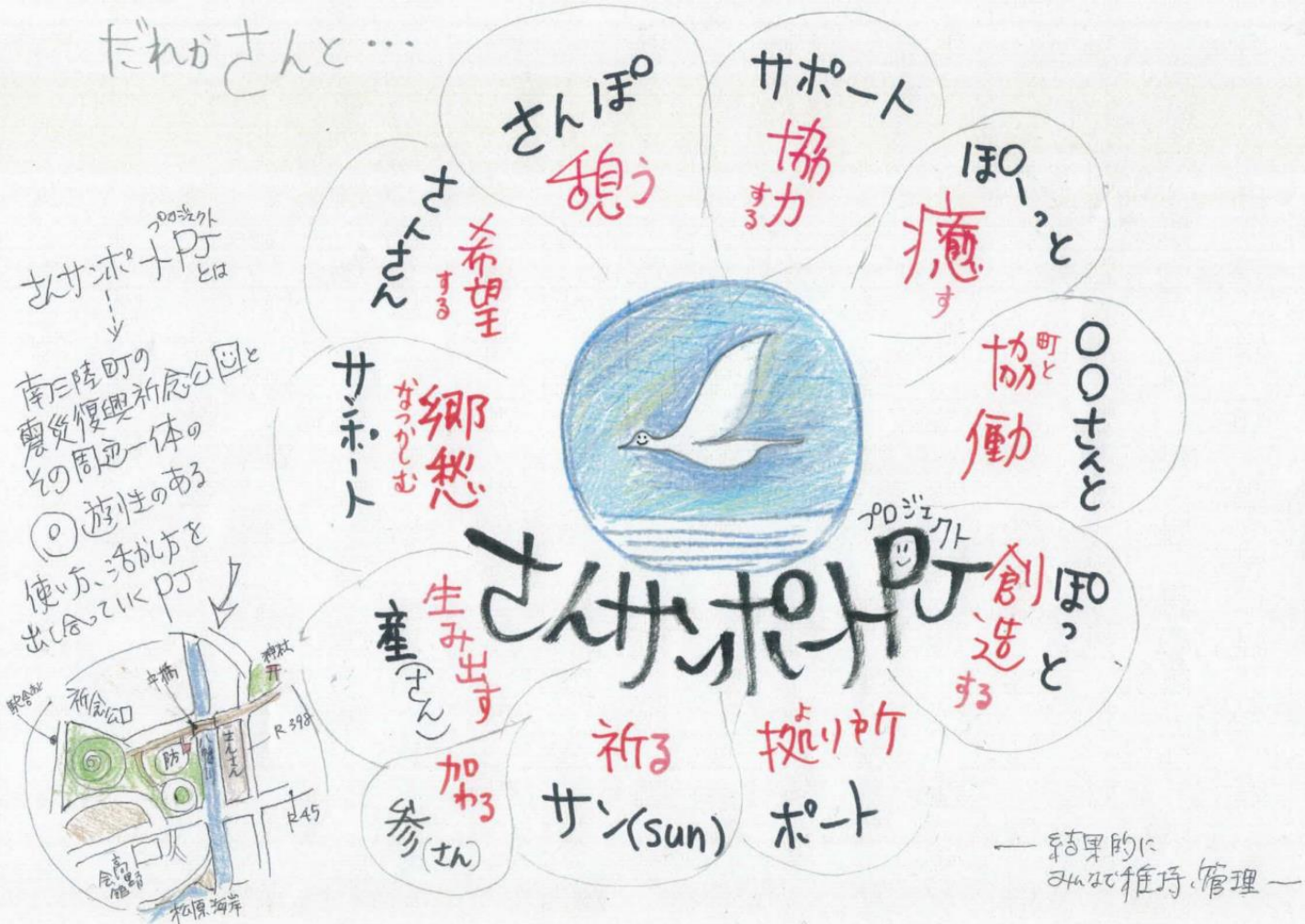
体制づくりを考えていくうえで、できるだけ偏った人たちで考えるのではなく、町の多くの関係者で公園のことを考えていけるような体制にしたいという思いがありました。そこで「〇〇会」と限定的な会員をつくる組織化ではなく、賛同してもらえれば誰でも参加できる「〇〇プロジェクト」として立ち上げることで、一般町民でも有志の会でも事業者でも公務員でも、それぞれのアイデアや方法で関わられることを目指します。（なお、そのうえで必要な事務作業等のための事務局を設けます。）

### POINT②プロジェクト理念

まだ生まれたばかりの公園。「こう守る」を理念にするのではなく「みんなでどう守っていくか」を常に考えていくことを理念とし、教育・福祉・観光・復興・産業などさまざまな分野で話し合い、アイデアを出しながら成長していくプロジェクトを目指します。また「公園の維持管理」だけでなく公園の賑わいや維持管理にも関連するエリアを含めた取り組みとします。

### POINT③“さんサンポート”由来

今回公園からスタートした検討も、公園の維持管理だけを掲げたらわくわくした取り組みができないという観点から、エリア帯をみた取り組みにしていこうと理念を決めました。エリアとしては商店街と隣接することから「さんさん」や川・海・祈り・学び・賑わいなどさまざまなキーワードが出てきました。そこで、「さんさん（さんさん商店街・お日様さんさん・明るい未来のイメージ等）」とした「ポート（港）」という意味を持たせた「さんサンポート」というネーミングが浮上しました。その中には、かつて町にあった思い出の商業施設「サンポート」も隠れていて、懐かしい気持ちにもなるという話にもなりました。そして、「さんサンポート」を分解していくともっとたくさんの意味が込められていることに気がきました。



### ③ 「さんサンポートPJ」に込めた想いと取り組みの方向性

上記の絵は「さんサンポートPJ」の名前に隠れているいろいろな可能性をみんなで紡いでみた絵です。

“希望、憩い、協力、癒し、協働、創造、拠り所、祈り、参加、産み出す、郷愁…”

これらのイメージもこの名前の中に隠れていることから、公園のことだけでなく少し広く見たエリアをこのような観点でさまざまに捉えて検討し、企画や仕組みをつくっていこうと考えています。つまり、例えば憩いの場や拠り所としてこのエリアを訪れることができる企画をすることで、あるいは祈りの場としても大切にしていける取り組みをすることで、地域子どもたちへの体験企画をすることで…などによって、結果的に公園に足を踏み入れ、公園をキレイにしていくことや活用していくこと、賑わいを創出することに繋げていければと考えています。



まだまだアイデアレベルですが、  
こんなことができないかなと考えています！



#### 取り組み案その1：来場者も参加できるクリーンアップキャンペーン（観光・商業・協働など）

さんさん商店街やこれからできる道の駅、伝承館などと連携して、町内のみならず町外からの来場者についても震災祈念公園に足を踏み入れる際にごみ拾いに参加してくれたり何かしらお手伝いをしてくれることで、ちょっとしたお得なサービスを得られるようなキャンペーンを実施する。事業者も公園管理（町）もお客さんもWIN-WINな仕組みを目指す。

#### 取り組み案その2：子どもたちと自然・歴史を学びながらクリーンアップ体験（教育・文化・創造など）

「ふるさと学習」（＝「ふる学」）の文化がある南三陸町なので、今回のプロジェクトエリアもそのフィールドとして、川のこと、海のこと、産業のこと、震災のことを教え体験する企画をし、その中で公園のクリーンアップも一緒にやることで公園への愛着や関心を高めてもらう。学校との連携や地元の達人たちの活躍の場にもなって欲しい。

#### 取り組み案その3：年に1回ずつ行政区交流の場として公園を守っていく（福祉・憩い・交流・福祉など）

震災後、町民運動会もないし行政区同士の交流の機会もなかなかないため、年間数回、人数等も考慮して複数行政区ごとにグループをくくり回数を分け、交流会兼公園をキレイにする会を企画する。企画自体はお花見や健康体験など取組みやすく楽しい企画にし、最後にみんなで公園のお手入れやお掃除を手伝う。